

分娩前体重(胸囲)推移からの周産期病発症予測

福島県畜産試験場 酪農部
平成13年度試験成績概要

1 部門名

畜産一乳用牛一畜産栄養
分類コード07-01-39460000

2 担当者

籠橋太史・小林寛・阿部正彦・塚原しおみ

3 要旨

乾乳期の飼養管理が分娩後の周産期病発症に大きく影響することが指摘されている。
特に、飼料摂取量の減少に伴う栄養摂取不足が代謝障害を引き起こしているとされる。

そこで、飼料摂取量と関連のある体重に着目し、本場繋養の乾乳牛や初産牛の分娩前の体重の変化と分娩後の疾病との関連を検討した。

- (1) 分娩前の体重の推移において、調査牛57頭のうち約8割の個体(増加群)が直線的に増加し、2割の個体(減少群)が分娩1ヶ月前に減少または停滞する傾向を示した。
- (2) 減少群で起立不能、食滞、乳房炎等の発症が12頭中 7頭にみられ、分娩間隔の長引く傾向が6頭に認められた。
- (3) 減少群のうちの経産牛は、全頭8～10月の分娩であったことから、夏期高温時の乾乳期飼養管理が重要と思われた。
- (4) 分娩前の胸囲の推移も体重と似た動きを示し、減少群の胸囲比は分娩1ヶ月前に低下した。

以上のことから、分娩前に体重あるいは胸囲の減少または停滞する個体は、分娩後に周産期病等の発症の可能性の高いことが推察された。

4 その他の資料等

- (1) 農林水産省技術会議事務局. 日本飼養標準乳牛(1999年版)
- (2) 清宮ら,分娩前の飼養管理による乳牛の周産期病予防,日畜会報,72(10):587-593,2001
- (3) 木村ら,乳牛における供用年数延長のための牛群管理の試み,栄養生理研会報,44(2): 99-111,2000